子どもの性的虐待を見逃さないで

- 性的虐待は、虐待の中でもっとも潜在性が高く、発見されにくい虐待と言われています。神奈川県の児童相談所での性的虐待の年間対応件数は、統計を取り始めて以降、１０～３０件程度に留まり、虐待全体の対応件数の１％前後に過ぎません。

- しかし、性的虐待のためにこわくてつらい体験をする子どもは、一般に考えられている以上に多く、氷山の一角と言われています。
  アメリカでは、1970 年代頃は現在の日本と同じように受理件数が少なかったのですが、対応が進んだ現在は、虐待件数の９％程度を占めています。

- 本リーフレットは、多くの先生方に性的虐待について知ってもらうことで、早期発見に繋がることを願い、作成しました。

性的虐待を知る

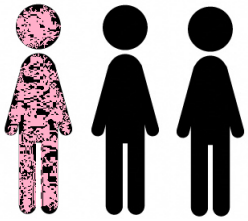
神奈川県中央児童相談所の調査によれば、性的虐待として児童相談所に受理された子どもの３人に２人が小学生と中学生で、３人に１人が性器挿入を伴う深刻な性被害を受けていることがわかりました。

３人に２人が小・中学生

性的虐待を受けた子どもの、３人に１人が小学生、３人に１人が中学生でした。

３人に１人が重篤な被害にさらされていました

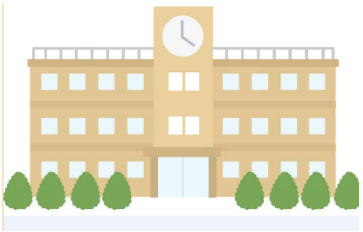
性的虐待を受けた子どもの、３人に１人が、性器性交、口腔性交、肛門性交を含む重篤な被害を受けていました。



発見時に子どもが訴えた虐待よりも深刻な被害が、後からわかることがありました。

誰が、性的虐待を見つけたか

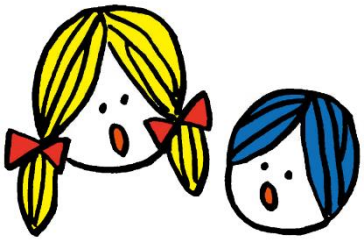
児童相談所への相談経路は、学校が２９％で最も多く、性的虐待を受けた子どもを最も発見することができる場所でした。



学校は、子どもの最初の告白相手となることが多いのです。

子どもの小さな告白が発見のきっかけ

学齢児の発見の６６％が、子どもの告白によって通告に至っていました。



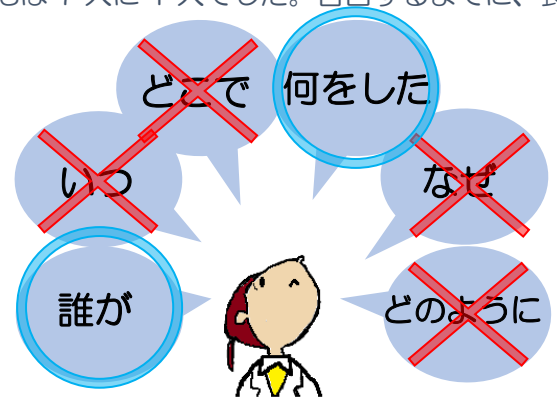
子どもの小さな告白をキャッチすることが子どもを救い出す一歩になるのです。

より詳しい情報は、神奈川県児童相談所のホームページよりダウンロードできます。
「神奈川県児童相談所における性的虐待調査報告書（第４回）」：http://www.pref.kanagawa.jp/docs/w6j/gyakutaitaisakusienka/seigyaku.html

被害をほのめかす子どもに出会ったら

- 性的虐待は、子どもの話を聴いた先生が、「**あいまいな言い方で、よくわからない**」「**なぜこんな平然とした言い方をするんだろう**」「**なぜ、こんな後になって話すのだろう**」と思うことも多いようです。

- 神奈川県の児童相談所の調査によれば、被害を受け始めて１年以上たって発見された子どもが２人に１人、５年以上かけて発見された子どもは７人に１人でした。告白するまでに、長い時間がかかるのです。



もし子どもが被害を話し始めたら、子どもの語りをさえぎらず、ていねいに聴き取ってください。
質問は最小限にして、「家庭内で性的な被害を受けた」ことが聴ければ、すぐに通告をしてください。
過去の記憶を何度も聴かれることで、記憶が汚染されてしまうことがあります。
詳しい被害内容を確認する必要は、ありません。

告白を受けたら、「疑わず、ちゅうちょしないで、速やかに」通告を

- 子どもの告白を聴いたら、**速やかに通告**をしてください。
子どもが訴えた被害内容だけで、通告をしてください。虐待の証拠をそろえる必要はありません。

- 児童相談所は現在、子どもから被害を聴取するための、専門的な面接手法を導入しています。
専門的な研修をうけた面接者が、子どもの心理的負担を最小化し、強要・教唆・暗示を排除した方法で面接を行います。警察と検察と連携した対応も、初期段階から行うことがあります。

- 児童相談所に通告する時は、その後の対応を考慮して、**子どもが学校にいる間に**児童相談所と対応を協議してください。

- **保護者等への連絡については、**学校だけで判断せず、児童相談所と協議してください。

「だれにも言わないで」と言われても

- 子どもが「だれにも言わないで」という事があります。しかし先生一人で対応できることには限界があり、抱え込むことは危険です。**子どものことを大切に思っていることを話し、子どもを守れるところに相談することを誠実に伝えてください。**子どもの対応で困った場合は、児童相談所に子どもにどう伝えればいいかも含め相談を始めてください。

令和元年 11 月 1 日改訂　神奈川県中央児童相談所　虐待対策支援課　　連絡先　0466-84-1600